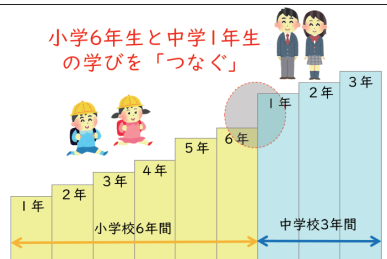
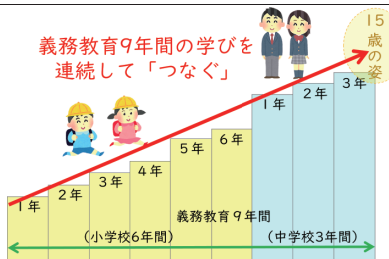


小中一貫教育の特徴

市では、これまで、主に「中1ギャップ」といわれる現象の解決を図るため、小中連携教育を進めてきました。今後はその取組を基盤としながら、教育における様々な今日的課題の解消に向けて、小中一貫教育を推進していきます。

小中一貫教育では、9年間のつながりを踏まえた取組を実施することで、子どもの発達段階により即した指導が可能となります。また、より幅広い異学年交流を通して、多様な人間関係の構築や、児童生徒の社会性・リーダーシップの育成につながると考えられています。

	【これまで】 小中連携教育	【これから】 小中一貫教育
概要	小・中学校が、互いに情報交換や交流を行うことを通じて、小学校教育から中学校教育への円滑な接続をめざす取組	小・中学校が「めざす子ども像」を共有し、9年間を通じた教育過程を編成し、系統的な教育をめざす取組
イメージ		
教育課程・カリキュラムの期間	小学校：6年間 中学校：3年間	小・中学校の9年間を通じた教育課程・カリキュラムを編成
小・中学校の教員の連携	指導方法などの情報共有	9年間のつながりのある指導に向け、小・中学校が指導方法などを共同で研究
	交流授業	専門性が要求される授業について、中学校教員の担当科目を小学校の学習計画に盛り込んで実施する「乗り入れ授業」を実施

問 (市) 学校再編室



◀学校再編の実施方針などはホームページをご覧ください

統合の進捗状況

志染・緑が丘中学校区、吉川小学校区、星陽・三木中学校区の保護者や地域、学校、教育委員会が組織する統合準備委員会で、円滑な統合に向けた協議が進められています。

これまで、学校の名称や校歌、通学方法などについて協議してきました。

また、統合に向けた児童生徒の交流も計画・実施されています。

子どもたちが新しい学校でスムーズに学校生活を送れるよう、今後取り組みを進めます。

豊かな学びで未来を拓く ～三木市がめざす、小中一貫教育～

問 (市) 学校再編室

進行する少子高齢化やグローバル化など、私たちは誰も経験したことのない時代を生きていかなくてはなりません。

そのような時代を生きていくためには、社会の変化に主体的に向き合い、多様な価値観の中から新たな価値を見出す、「未来を生き抜く力」が求められています。

豊かな学びで未来を拓く

三木市では、子どもたちに必要な「未来を生き抜く力」を育成するため、義務教育を終える「15歳の姿」を小学校と中学校が共有し、9年間の義務教育をつなぐことで、子どもたち一人一人の資質・能力を育成する「小中一貫教育」を導入する予定です。

昨年度から、市教育委員会と各学校が連携して研究を進めており、今後、各学校に順次導入していきます。

今月号では、小中一貫教育が求められる理由や市がめざす小中一貫教育の特徴についてお知らせします。

小中一貫教育が求められる背景

学習活動の量的・質的充実

小学校へ外国語教育が導入されるなど、教育内容や学習活動の量的・質的な充実が図られており、小学校高学年での専門的指導や、児童生徒がつまずきやすい学習内容について、長期的な視点で小学校と中学校の教員が連携する必要がある。

発達の早期化への対応

子どもたちの身体的な発達や、思春期の到来の早期化に伴い、子どもたちの興味関心や個性へ対応するため、従来、中学校教育において必要とされていたものが、小学校教育においても求められている。

中1ギャップへの対応

小学校から中学校への進学に際し、新しい環境での学習や生活に不適応を起こす、いわゆる「中1ギャップ」という現象に対して、義務教育の9年間を通じて、発達段階に応じた適切な対応が求められている。

社会性の育成の強化

年齢の離れた子ども同士の関りや、大人とのコミュニケーションの減少など、子どもをめぐる家庭や地域社会の状況が変化している中で、集団教育の場である学校に対して、社会性の育成を強化するという役割への期待が高まっている。